

(2) ナ シ

〔果樹類>落葉果樹>仁果類>なし〕

① 防除のポイント・注意点

病害虫名	防除時期	摘 要
黒 斑 病	幼 果 期	<ul style="list-style-type: none"> ・「二十世紀」では袋かけ直前に薬剤を散布し、防除後は時間を空けないで袋かけを行う。 ・5月下旬～6月は感染最盛期なので、7日おきに防除し、梅雨時期には展着剤を必ず使用する。
黒 星 病	脱 苞 期 ～ 開 花 前	<ul style="list-style-type: none"> ・りん片がずれ始めた頃に薬剤を散布すると効果が高い。
	幼 果 期 ～ 果 実 肥 大 期 お よ び 収 穫 期	<ul style="list-style-type: none"> ・春先に降雨が多く、低温の年は多発する。 ・防除が必要なときは、雨の止み間や少雨でも防除する。 ・9～10月は秋季発生期であり、収穫期間中でも使用基準を守って薬剤散布する。
	収 穫 後	<ul style="list-style-type: none"> ・休眠期防除参照
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・病斑がついている枝や芽は切り取り、園外で焼却処分する。 ・欄外参照
赤 星 病	・開花直前～5 月 上 旬	<ul style="list-style-type: none"> ・多発園では、初発期とさらにその1週間後に散布する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・中間宿主であるビャクシン類を周辺(1km程度)から取り除く。
輪 紋 病 (いぼ皮病)	剪定整枝時 及 び 病 患 部 削 り 取 り 直 後	<ul style="list-style-type: none"> ・枝幹部のいぼにトップジンMペーストを塗布して、いぼからの孢子飛散を封じ込める。
	6 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬	<ul style="list-style-type: none"> ・摘果直後・梅雨期・果実肥大後期が、防除適期である。
胴 枯 病	剪定(整枝)時及 び病患部削り取り 直 後	<ul style="list-style-type: none"> ・せん定直後の切り口にトップジンMペースト、またはバッチレート塗布する。 ・特に、「幸水」は予防効果が高い。 ・生育期にも病患部の早期発見に努め、見つけ次第、病患部を大きめに完全に削りとり、その傷あとおよび周辺部に十分塗布する。
白 紋 羽 病 欄外参照	収穫30日前ま で	<ul style="list-style-type: none"> ・休眠期処理では、根を露出させ病患部切除後に薬剤をかん注する。 ・生育期処理では、土を掘り返さず、かん注器により土壤に注入する。

病害虫名	防除時期	摘 要
カメムシ類	5 月 中 旬 ～ 9 月 上 旬	・成虫が山林から果樹園に飛来し、幼果期から収穫期まで加害するため、常に発生動向に注意する。
ナシゲンバイ	5 月 下 旬 ～ 6 月 中 旬	・夏から秋にかけて高温、乾燥が続く年は発生に注意する。
ヤ ガ 類 (果実吸汁蛾類)	[被害時期] 7 月 中 旬 ～ 収 穫 期	・幼虫が山林原野で発育し、成虫が夜間のナシ園に飛来して果実を吸汁する。近くに山林原野があると被害を受けやすい。 ・ナシを加害するヤガとしてアケビコノハ、フクラスズメ、ナシケンモンがある。
	[耕種的防除]	・ 薬剤による防除法はなく、多目的防災網等でナシ園全体を被覆し、成虫の侵入防止をはかる。 ・忌避効果のある黄色灯を設置し、夜間に点灯する。
アブラムシ類	5 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬	・展葉期には葉の薬害が発生しやすいので注意する。
カイガラムシ類	5 月 上 旬 ～ 7 月 中 旬	・特に春先の発生に注意する。 ・5月上～中旬、7月上～中旬頃の幼虫ふ化期から若齢幼虫期に防除する。 ・ 休眠期防除参照
クワコナ カイガラムシ		
コナカイガラムシ類若齢幼虫	7 月 上 旬 ～ 中 旬	
	[コナカイガラムシ類の耕種的防除: バンド誘殺法]	・9月下旬までに主枝や亜主枝にクラフト紙を巻きつけ、12月～2月に取り外して焼却、駆除する。
ナシホソガ (ナシノカワモグリ)	6 月 下 旬 ～ 7 月 上 旬	・6月下旬から7月上旬頃の越冬世代成虫発生最盛期を中心に防除する。
シンクイムシ類	7月上旬～中旬	・「豊水」では、さらに8月中～下旬の間に薬剤防除を行う。
ナシヒメシンクイ	成虫発生初期	・性フェロモン剤は、ディスペンサーを細枝などに巻き付け、圃場内で均一になるように設置する。晩生品種には残効が及ばないことがあるので、8月中旬に50本/10aを追加で設置する。
	[耕種的防除]	・被害枝、被害芽は切除後に焼却する。
ハマキムシ類	5 月 中 旬 ～ 6 月 下 旬	・発生状況を見ながら、ふ化幼虫の最盛期に防除する。
ハダニ類 欄外参照 休眠期防除参照	[耕種的防除]	・雑草中で増殖を繰り返すので、草刈りを励行する。なお、草刈りに合わせて薬剤を散布する。 ・9月中旬に樹幹部にコモ等をまきつけ、バンド誘殺する。
ニセナシサビダニ 欄外参照	5 月 上 旬 ～ 6 月 上 旬	・本種は、ナシの徒長枝先端部の新葉に寄生して吸汁加害するほか、増殖すると葉にさび症状を呈する被害を発生させる。被害葉は褐変、変形し、被害が進行すると早期に落葉する。 ・被害の発生程度には品種間差があり、「二十世紀」など葉に繊毛の多い品種で著しい。 ・ 休眠期防除参照

② 黒星病防除

発生の特徴

- ・9月以降の罹病落葉とりん片病斑が伝染源となり、翌年の3月中旬頃から5月下旬頃にかけて降雨のたびに胞子が飛散し、伝染する。その後、病斑上に形成された分生子は、降雨時に分散して伝染を繰り返す。
- ・開花直前から開花後約2週間までに、降雨日が多いと感染が増大する。
- ・葉・葉柄・りん片・花そう基部・果実・新梢に、発病する。もともと感受性が高い「幸水」では、満開40日後頃には感受性がいったん低下するが、その後再び徐々に高まり、満開75～90日後に最盛期に達する。

防除法

- ・もともと重要な防除時期は、開花直前から開花後2週間までであり、この時期の薬剤防散布を徹底する。
- ・落葉は、集めて土中に埋めるか焼却する。乗用草刈機での粉碎、ロータリーでの粉碎、すき込みも効果がある。
- ・りん片および芽基部の病斑は、開花直前までに切除する。
- ・施肥量の適正化とともに、風通し・日当たりを良くして、健全な樹に育てる。

③ 白紋羽病防除

発生の特徴

- ・春季の発芽が遅れ、新梢伸長が悪くなる。葉色はやや淡くなり、果実は小玉傾向となる。
- ・花芽の数が多くなり、秋季の紅葉、落葉が早くなる。
- ・地上部にこのような症状が出た樹の根を掘り上げてみて、根に真っ白い菌糸が扇状に密着している場合は、白紋羽病と診断される。

防除法

- ・上記のような特徴が一見して分かる場合は、防除が困難な場合が多いので、園内をよく見回り早期発見、防除に努める。
- ・重症の樹では休眠期処理とし、樹の周囲の半径1m、深さ15cm程度の土を掘り上げ、根を露出させる。病根を除去した後、薬剤かん注し、埋め戻す土と薬液がよく混ざるようにしながら埋め戻す。
- ・軽症樹や重症樹の隣接樹では、生育期に土壌かん注器を用いて、薬剤をかん注処理する。

④ ハダニ類、ニセナシサビダニの防除

ダニ剤の特性と使用上のポイント

- ・前年多発した園では、休眠期防除とともに展葉後なるべく早い時期に防除する。
- ・ハダニ類は繁殖が早く、高密度になると防除が困難になるので、発生初期に薬剤散布する。
- ・多発園では、5～6日おきに系統の異なる薬剤で2～3回防除する。
- ・浸透移行性がない薬剤は、かけ残しのないように葉の表裏に丁寧に散布する。
- ・成虫に対する防除効果がない薬剤は、薬剤の効果発現には10日程度を要する。

作物名	薬剤名	農業の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）							
									黒星病	黒斑病	傷口の ゆ合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	胴枯病	白紋羽病	輪紋病
なし	パッチレート	有機銅塗布剤	M1		【C】	3回 以内		【Z】			原液			原液		
なし	パレード15707Aブル	ピラジフルミド水和剤	7		収穫前日 まで	2回 以内	200～700% /10a	散布	2000～ 3000倍	2000倍		2000～ 3000倍				2000～ 3000倍
なし	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ水和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	3000～ 4000倍	3000～ 4000倍						3000～ 4000倍
なし	フルツセイバー	ベンチオピラド水和剤	7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	1500～ 3000倍			1500～ 3000倍				
なし	フロサイドSC	フルアジナム水和剤	29		収穫30日 前まで	1回	100～200% /樹	土壌灌 注							1000倍	
							200～700% /10a	散布	2000～ 2500倍	2000～ 2500倍					2000倍	
							50～100% /樹	土壌灌 注						500倍		
なし	ベランティン707Aブル	メフェントリアルコ ゾール水和剤	3		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	8000倍							
なし	ベルクト707Aブル	イミノタジナルヘ シル酸塩水和剤	M7		収穫14日 前まで	5回 以内	200～700% /10a	散布	1500倍	1500倍						1500倍
なし	ベルクト水和剤			収穫14日 前まで	5回 以内	200～700% /10a	散布	1000～ 1500倍	1000～ 1500倍						1000～ 1500倍	
なし	ミキ720707Aブル	イブフルフェキソ水和剤	52		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	2000～ 4000倍							
なし	ユニックス顆粒水和剤47	シプロジニル水和剤	9		収穫21日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	2000倍			1000～ 2000倍				
なし	ロブラル水和剤	イブロンソ水和剤	2		収穫14日 前まで	5回 以内	200～700% /10a	散布		1000～ 1500倍						

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

【B】 剪定整枝時及び病患部削り取り直後

【C】 剪定時及び病患部削り取り直後

使用方法：【Z】 剪定枝の切口、病患部の削除あとに塗布

ナシ【殺虫剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)											
									アブラムシ類	カイガラムシ類	カメムシ類	クワコナハダムシ	コナハダムシ類若齢幼虫	シツメイムシ類	ナシノハダ	ナシノガ	ニセナシバダニ	ハダニ類	ハマキムシ類	
なし	アデント水和剤	アクリリク水和剤	3A		収穫7日前まで	3回以内	200~700%/10a	散布	1000倍		1000倍				1000倍				1000倍	
なし	アディオン乳剤	ベルメトリ乳剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200~700%/10a	散布	2000~3000倍		2000倍				2000~3000倍					2000倍
なし	ウララDF	アロニド水和剤	29		収穫14日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布	2000~4000倍											
なし	トリオン水和剤40	アロニド水和剤	1A	劇	収穫3日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布	1000倍	1000倍					1000倍					1000倍
なし	コロマト水和剤	ミルベックス水和剤	6		収穫前日まで	1回	400~700%/10a	散布												2000倍
なし	サムコプロアール10	クロマトニプロール水和剤	28		収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布							2500~5000倍					2500~5000倍
なし	サンマト水和剤	ビリダベン水和剤	21A	劇	収穫21日前まで	1回	200~700%/10a	散布	1000~1500倍									1000~1500倍	1000~1500倍	
なし	スカトロアール	トラマトリク水和剤	3A	劇	収穫前日まで	5回以内	200~700%/10a	散布	1500~2000倍		1500倍				2000倍					↑ミカンハダニを除くハダニ類
なし	スターマトアール	シノビラン水和剤	25A		収穫前日まで	1回	200~700%/10a	散布												2000倍
なし	ダニコグアール	ビフルミド水和剤	25B		収穫前日まで	1回	200~700%/10a	散布												2000倍
なし	ダニハラアール	シフルメタン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200~700%/10a	散布												1000~2000倍
なし	ダニロンアール	フェンロキシメト水和剤	21A		収穫14日前まで	1回	200~700%/10a	散布										1000~2000倍	1000~2000倍	
なし	ディアナWDG	スピネラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200~700%/10a	散布							5000~10000倍					5000~10000倍
なし	トランスホームアール	スルホアール水和剤	4C		収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布	2000~4000倍	1000~2000倍										
なし	ニッラン水和剤	ヘキシゾクス水和剤	10A		収穫7日前まで	1回	200~700%/10a	散布												2000~3000倍
なし	パーマシオン水和剤	フェンバレートMEP水和剤	1B,3A	劇	収穫30日前まで	5回以内	200~700%/10a	散布	1000~2000倍		1000~2000倍				1000~2000倍	1000倍	1000倍	1000~2000倍		1000倍
なし	ハチハチアール	トルフェンビラド水和剤	*21A(0*)	劇	収穫30日前まで	1回	200~700%/10a	散布	2000倍		2000倍									2000倍
なし	ハロクアール	エトキサール水和剤	10B		収穫14日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布												2000倍
なし	ビラニカ水和剤	テブフェンビラド水和剤	*21A(0*)	劇	収穫14日前まで	1回	200~700%/10a	散布										1000倍	1000~2000倍	
なし	フェニクスアール	フルベンジアミド水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	200~700%/10a	散布							4000倍					4000~6000倍
なし	ベスタガード水溶剤	ニッラン水溶剤	4A		収穫14日前まで	3回以内	200~700%/10a	散布	1000~2000倍		1000~2000倍									
なし	マトリクアール	クロマフェジド水和剤	18		収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布												1000~2000倍
なし	モスピラン顆粒水溶剤	アセチアリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布	2000~4000倍	2000~4000倍	2000~4000倍				2000~4000倍		4000倍			
なし(無袋栽培)	スピオン水和剤40	MEP水和剤	1B		収穫21日前まで	6回以内	200~700%/10a	散布	800~1200倍		800~1000倍	800~1200倍			800~1200倍	800~1000倍				800~1200倍
なし(有袋栽培)					収穫14日前まで				800~1200倍		800~1000倍	800~1200倍			800~1200倍	800~1000倍				800~1200倍
なし(無袋栽培)	スピオン乳剤	MEP乳剤	1B		収穫21日前まで	6回以内	200~700%/10a	散布	1000~2000倍		1000倍	1500倍			1000倍	1000倍	1000倍			1000倍
なし(有袋栽培)					収穫14日前まで				1000~2000倍		1000倍	1500倍			1000倍	1000倍	1000倍			1000倍
日本なし	ダイアジノ水和剤34	ダイアジノ水和剤	1B	劇	収穫14日前まで	6回以内	200~700%/10a	散布	1000~1500倍				1000~1500倍	1000倍	1000~1500倍					1000~1500倍
果樹類	ナシヒメコン	ナシヒメコン	- (7a)		成虫発生初期から終期		50~100本/10a	【A】							50~100本/10a (23g/10本製剤)	ナシヒメコン				

使用方法：【A】ディスプレイを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する。